

運動処方継続の彼方に何を観る

長尾憲樹

日本運動処方学会

NPO 法人元気寿命を創造する会

川崎医療福祉大学健康体育学科

2002 年 9 月に既存の学会活動に限界を感じた仲間が集合し、高知市の JR 駅近くのビジネスホテルの会議室で日本運動処方学会の設立総会を行ったことが思い出されます。第 1 回大会から川崎医療福祉大学学長：岡田喜篤先生（現在：社会福祉法人北海道療育園 理事長）に開会での御挨拶をお願いするのが恒例となり、第 3 回大会「医療福祉からの提言 ―川崎医療福祉大学の唱える「医療福祉とは何か」―」についての御講演まで快くお願いできました。その後、可能な限り第 9 回大会まで続いた御挨拶から、学会員一同勇気と使命感を頂きました。干支が一回りした今大回まで、継続してこられた学会員の方、途中から去られた学会員の方、或いは新たに参加された会員の方に深謝いたします。全ての会員のその時点での真剣さがあるゆえに、第 12 回日本運動処方学会を開催できました。

改めて処方学会長としての講演を振り返らせてもらいますと、

第 1 回 現場と教育・研究の間で運動処方を考える 平成 15 年 8 月

第 2 回 運動処方学会の未来に向けて 平成 16 年 8 月

第 3 回「指導歴の認定方式を考える」 平成 17 年 8 月

第 4 回 第五回大会に向けて 平成 18 年 9 月

第 5 回 これまでとこれからの学会員に向けて一温故知新一 平成 19 年 9 月

第 6 回 一人ひとりの指導歴から倫理へ 平成 20 年 9 月

第 7 回 NPO 法人の立場から運動処方を活かせる職業、職場としての特定非営利活動

平成 21 年 9 月 日本生涯スポーツ学会・日本運動処方学会合同大会プログラム

第 8 回 運動処方を熟慮して、新たなトレーニングの提案 平成 22 年 10 月

第 9 回 3・11 以降の運動処方学会への提案 平成 23 年 10 月

第 10 回 生存のための体力 平成 24 年 10 月

第 11 回 日本運動処方学会賞の提案 平成 25 年 10 月で

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科初代学科長の医学者・運動生理学者・教育者である小野三嗣先生が、残された「たとえば生理学的な実験の場合も、目的、対照、方法、時期、環境などによって、得られた知見の現実的な体力づくりへの応用には多くのいろいろな制約があるということである。また疫学的研究によって得られた結論の場合は、多くの人々を集団としてとらえて計画を立てる行政施策の立案に対しては有用であっても、社会を構成するひとりひとりの個人の行動を律する指針とするのは必ずしも正しくない。」この哲学が、今まさにこの時代であるがゆえに、必要とされていることを説明して、小野三嗣賞を提案し総会にて決定して頂きました。

本年度、22 年勤めた川崎医療福祉大学を去るに当たり、私が運動処方の彼方に何を観ているかお話しします。